

海底アルミ同軸ケーブルシステム

1975年(昭和50)度から、郵政省による4カ年計画で、新海底同軸ケーブルの開発をNTTなどと協力して行った。新海底同軸ケーブルは、外部導体に従来の銅の代わりにアルミニウムを用いて経済性を図った。開発の第1段階として、75年度にケーブルと中継器の研究開発を行い、関連メーカーと共同で中継器開発を担当した。第2段階に入った78年には、100kmのシステムを相模湾に敷設し、現場試験を行った。

海底ケーブル分野ではこのほかに、研究開発が始まったごく初期の63年にTZ-1形電信端局装置が開発された。65年にTPC用回線等化装置、74年には海底ケーブル中継機監視装置、76年に海底ケーブル複式等化装置なども開発された。

出典：KDD社史